

グアテマラ経済(2009年3月)

平成21年4月
在グアテマラ日本国大使館

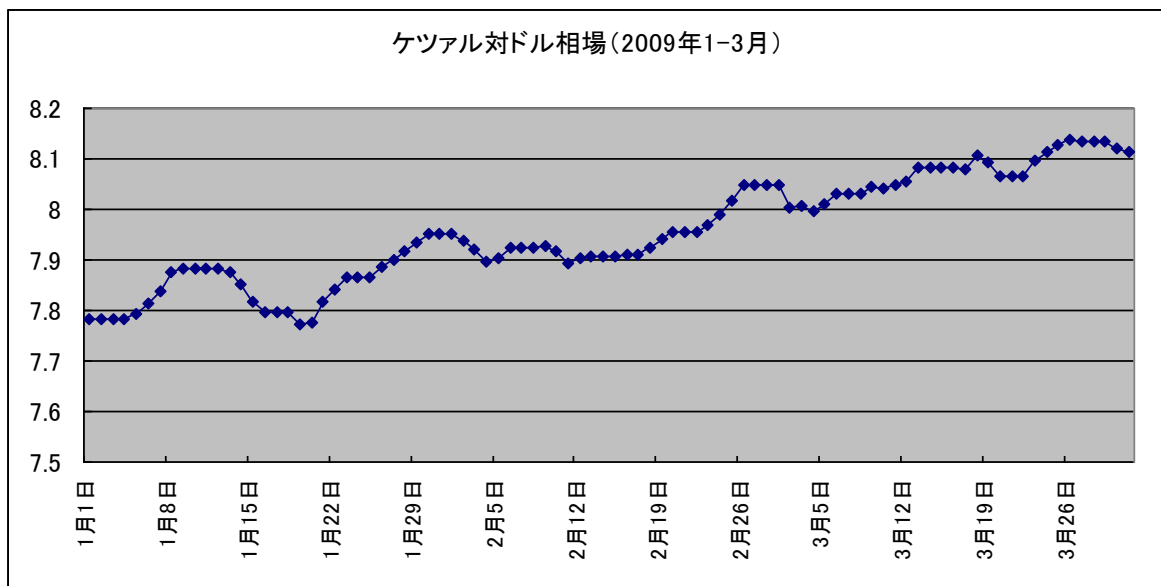
『3月の主な動き』

- 17 日以降、中銀は、ケツアル安ドル高の影響を緩和する目的で、ケツアルの対ドル為替相場に4度の介入(ドル売り・ケツアル買い)を行い、合計 67.45 百万米ドルを売却した。
- 25 日、国家金融審議会(JM)は政策金利の引き下げ(6.50%→6.00%)を決定した。
- 2009 年 1-2 月の輸出総額は 1,217.3 百万米ドル(前年同期比-1.5%減)、輸入総額は 1,726.0 百万米ドル(前年同期比-25.7%減)で、貿易収支は 508.7 百万米ドルの赤字(前年比-53.2%減)。他方、2009 年第1四半期(1-3 月)の海外送金は 916.3 百万米ドルとなり、前年同期(973.4 百万米ドル)を 57.0 百万米ドル下回った(5.9%減)。
- 2009 年 1-3 月の税収額は 8,358.1 百万ケツアル(約 1,035.3 百万米ドル)で、前年比 5.65%減少した。
- 26 日、グアテマラ政府と IMF は、スタンバイ・クレジットの実施に関し事務レベルで合意に至ったと発表した。融資金額はおよそ 950 百万米ドル、期間は 18 ヶ月となる見込み。

1. 主な経済指標

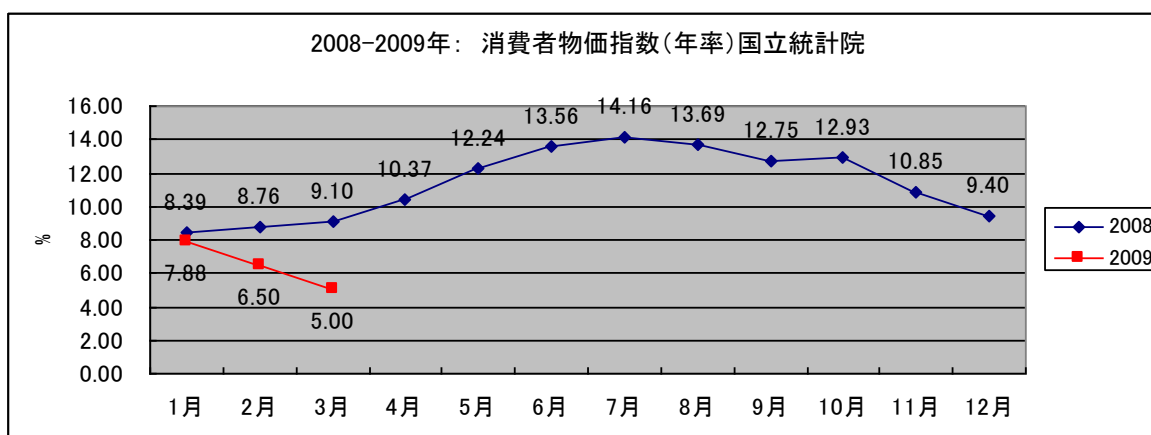
(1) 為替レート(中銀) 2. (2) 参照

3月のケツアル対ドル相場は、1ドル=8.00-8.14 ケツアルのレンジで推移。1月半ば以降のケツアル安ドル高がさらに進行し、17日以降、中銀は計4回の市場介入(ドル売り)を行った。中銀による為替市場への介入が行われるのは、08年12月29日以来、約2ヶ月半ぶりとなった。

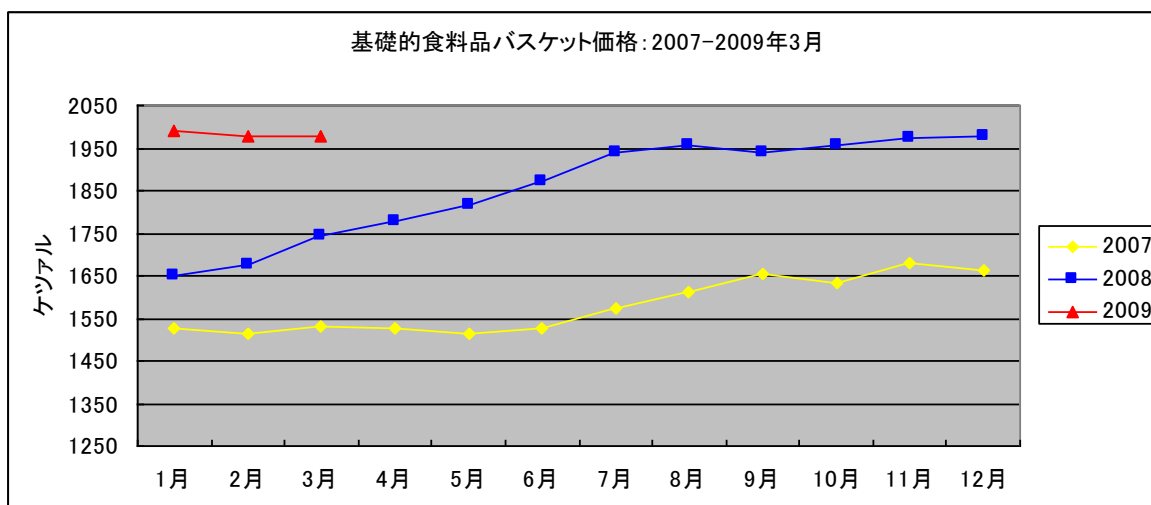


(2) 消費者物価指数(国立統計院 INE)

3月、消費者物価指数は前月比-0.25%下落し、2009年累積(1月～3月)では-1.26%の下落となった。消費者物価指数は、2008年11月以降、5ヶ月連続して前月比で下落している。また、年率(2008年3月～2009年3月)では5.00%の上昇となり、先月に引き続き、2009年のインフレ目標(5.5±1.0%(4.5-6.5%))内に収まっている。



基礎的食料品バスケット(Canasta Básica de Alimentos: 1世帯5.38人分のカロリーとタンパク質の摂取を満たす最低限の食料26品目)の価格は、前月比Q1.32(約0.2米ドル)下落し、Q1, 976.78/月(約244.9米ドル)となった。他方、基礎的生活バスケット(Canasta Básica Vital: 基礎的食料品バスケットに、生活に不可欠な財と最低限のサービスを加えたもの)の価格は、前月比Q2.42(約0.3米ドル)下落し、Q3, 607.26/月(約446.8米ドル)となった。いずれも、年率換算では13.27%の上昇であり、消費者物価指数の上昇(年率5.00%)を上回っている。



(3) 政策金利

25日、国家金融審議会(JM)は、政策金利を6.50%から6.00%に引き下げることを選定した。なお、国家金融審議会は、1月及び2月にも、政策金利を引き下げている(1月:7.25%→7.00%、

2月:7.00-6.50%)。

国家金融審議会は、政策金利引き下げの理由として、消費者物価指数が3ヶ月連続して(2008年12月以降)前月比で下落するなど、国内のインフレは予想以上の減速傾向であり、インフレ圧力は今後も弱まると予測されること、国際金融危機の発生に伴う世界的な経済危機の影響で、世界各国の経済成長予測が下方修正されていること等を挙げた。

(4) 貿易統計(中銀)

2月の輸出は620.6百万米ドル(前年同月比-3.4%減)、輸入は884.1百万米ドル(前年同月比-24.8%減)。2009年1月から2月までの輸出総額は1,217.3百万米ドル(前年同期比-1.5%減)、輸入総額は1,726.0百万米ドル(前年同期比-25.7%減)で、貿易収支は508.7百万米ドルの赤字(前年比-53.2%減)となった。

2009年1月から2月までの輸出の内訳では、伝統的な輸出産品である砂糖、バナナ、カルダモンの輸出が好調を示した一方で、コーヒーの輸出は伸び悩んでいる。原油については、国際原油価格の低下のために輸出額が減少したものであり、輸出量は昨年と相違ない。

	輸出額(百万米ドル)		前年比	輸出量(百万KG)*		前年比
	2008年	2009年		2008年	2009年	
砂糖	36.3	82.1	126.2%	142.2	263.8	85.5%
バナナ	39.4	88.9	126.0%	172.8	287.6	66.5%
カルダモン	38.5	101.2	162.8%	4.9	6.1	24.0%
コーヒー	120.4	95.8	-20.5%	44.2	40.6	-8.2%
原油	54.0	20.7	-61.7%	0.8	0.8	0.0%

*原油の単位は百万バレル

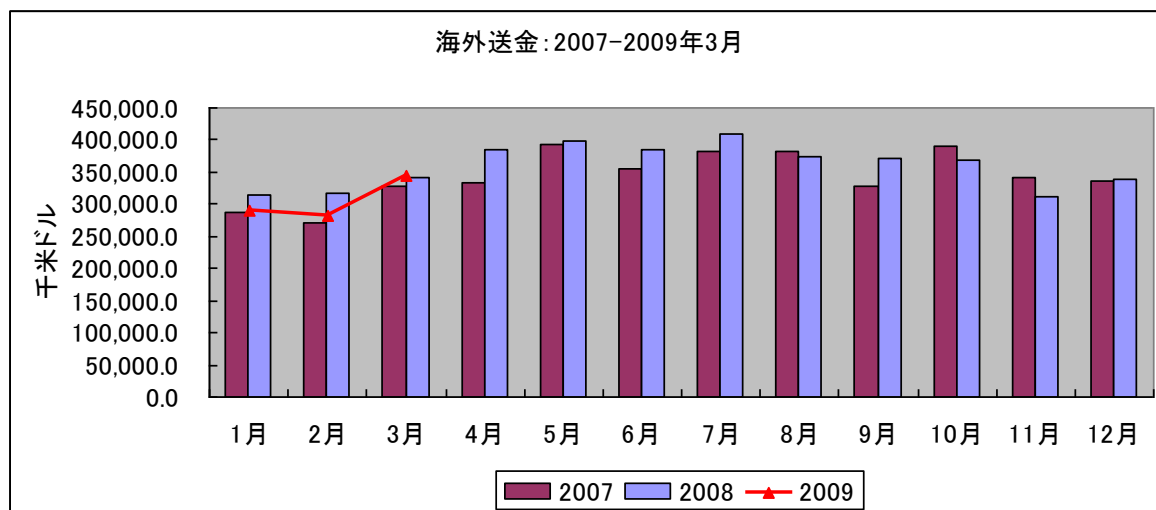
また、同期間中の衣類及び衣類付属品の輸出は、前年比-33.4%減少し、157.6百万ドルに留まった。輸出先では、最大の輸出相手国である米国向けの輸出が前年比-6.2%減の476.6百万米ドルであったほか、中米4カ国向けの輸出も前年比-9.4%減少し、319.0百万米ドルとなった。

他方、同期間中の輸入の内訳では、原材料及び中間財の輸入が前年比-35.6%減の570.8百万米ドル(輸入に占める割合33.1%)、消費財の輸入が前年比-12.1%減の499.5百万米ドル(同28.9%)となった。

(5) 海外送金(中銀)

3月の海外送金は、前年同月(340.5百万米ドル)と比較して3.7百万米ドル増(1.1%増)の344.1百万米ドルに上った。2009年第1四半期(1月から3月まで)の送金総額は916.3百万米ドルとなり、前年同期(973.4百万米ドル)を57.0百万米ドル下回った(5.9%減)。

他方、3月、米国から空路で強制送還されたグアテマラ人不法移民は2,190人に上り、2009年1-3月の合計は6,427人となった(前年同期比19.6%増)。



(6) 税収：国税庁(SAT) 2. (3) 参照

国税庁(SAT)によれば、2009年3月までの税収額は8,358.1百万ケツアル(約1,035.3百万米ドル)で、前年比5.65%減少した。

内訳では、直接税からの税収が前年同期比2.6%減(70.3百万ケツアル減)の2,630.3百万ケツアル(約325.8百万米ドル)となり、そのうち、法人税・所得税(ISR)からの税収が、前年同期比6.4%減(137.2百万ケツアル減)の2,020.6百万ケツアル(約250.3百万米ドル)に留まった。特に、法人税からの税収の落ち込みが著しく、前年同期比-10.1%減(185.3百万ケツアル減)の1,655.9百万ケツアル(約205.1百万米ドル)となっている。

他方、間接税からの税収は、前年同期比7.0%減(430.3百万ケツアル減)の5,727.8百万ケツアル(約709.5百万米ドル)となった。特に、輸出にかかる付加価値税(IVA)及び関税からの税収の伸び悩みが顕著となっており、それぞれ、前年同期比20.6%減(567.2百万ケツアル減)の2,183.8百万ケツアル(約250.3百万米ドル)及び前年同期比-18.7%減(115.4百万ケツアル減)の500.9百万ケツアル(約62.0百万米ドル)に留まった。

2009年度の税収目標は、2008年度を13.67%上回る38,731百万ケツアルとされていたが、24日、ビジェダ国税庁(SAT)長官は2009年度の税収見込みの引き下げを発表した。

2. 国内経済トピックス

(1) 経済大臣他の交替 (3月16日)

16日、コロン大統領は、カバジェロス経済大臣の辞任の申し出を受け入れたことを明らかにした。後任には、2008年1月より経済省で地域統合・対外通商担当次官を務めていたルベン・モラレス新経済大臣が任命され、同日就任した。また、同日コロン大統領は、レシノス農牧食糧大臣の辞表を受理したことも明らかにし、後任としてマリオ・アルダナ新農牧食糧大臣を任命した。2008年1月のコロン政権発足以来、経済省、農牧食糧省共に3回目の閣僚交替となった。

大統領府は、両閣僚の交替は個人的な理由に基づくと述べたが、カバジェロス前経済大臣の

場合は経済危機対策緊急国家計画の進捗状況が、レシノス前農牧食糧大臣の場合は化学肥料配布プログラムの進捗状況が進退に影響したとの見方もある。

(2) 中銀の為替市場介入

1月半ば以降進行しているケツアル安ドル高の影響を緩和する目的で、中銀は、17日以降、ケツアルの対ドル為替相場に4度の介入(ドル売り・ケツアル買い)を行い、合計67.45百万米ドルを売却した。

中銀による対ドル為替市場への介入は、2008年12月29日以来およそ3ヶ月ぶりである。ブリッツ商工会議所会頭は、ケツアル安ドル高のグアテマラの輸入に与える影響に懸念を表しつつ、中銀によるケツアル安への対応がケツアル高への対応に比較して遅延しがちであるとして、中銀が輸出業者を擁護する傾向があると批判した。

(3) 2009年度税収見込みの引き下げ： 国税庁 (3月24日)

24日、ビジェダ国税庁(SAT)長官及びフエンテス財務大臣は、2009年度税収見込みを38,732百万ケツアルから3,596.9百万ケツアル(約-9.2%)引き下げ、35,165百万ケツアルとしたことを明らかにした。国税庁が税収見込みを引き下げるのは、1998年に国税庁が創設されて以来のことである。

フエンテス財務大臣は、税収の不足分は、歳出削減、ドネーション及び対外債務の調達により充足すると述べるとともに、世界的に厳しい経済情勢は、グアテマラにも輸出入の停滞や税収の減少等の形で幅広い影響を及ぼしており、政府は、経済危機対策緊急国家計画の実施と財政の最適化を図るべく、2009年度国家予算の再編を行っているとした。

3. 対外経済トピックス

(1) コロンビア及びパナマとの自由貿易協定の国会承認 (3月10日)

10日、グアテマラの国会において、中米3カ国(グアテマラ、エルサルバドル及びホンジュラス)・コロンビア自由貿易協定及びグアテマラ・パナマ自由貿易協定が承認された。今後、両協定は、グアテマラの官報(Diario de Centroamerica)への掲載を経て、批准に向けた国内手続きを完了する。

モラレス経済大臣は、自由貿易協定の早期発効を目指すとともに、対コロンビア及び対パナマ貿易の収支改善に取り組んでいきたいと述べた。

(2) IMF スタンドバイ・クレジット実施に関する事務レベル合意： IMF, 財務省 (3月26日)

グアテマラを2週間にわたって訪問したIMFミッションは、26日、フエンテス財務大臣及びデ・ボニージャ中銀総裁とともに記者会見を開き、グアテマラに対するスタンドバイ・クレジットの実施に関し、グアテマラ政府と事務レベルで合意に至ったと発表した。引き続き、4月後半に開催予定のIMF理事会の承認を得る必要があるが、グアテマラに対する融資金額はおよそ950百万米ドル、期間は18ヶ月となる見込みである。

同日付の IMF コミュニケによれば、スタนด์バイ・クレジットは、グアテマラの外貨準備高を適切に保ち、信用を確保する予防的戦略として検討された。IMF によれば、グアテマラのマクロ経済は近年の引き締め政策等が功を奏して安定しており、困難な世界経済情勢にも立ち向かえる状態にあるが、マクロ経済の更なる安定化、社会政策の実施及び中期的な経済成長を図る事を目的に、スタนด์バイ・クレジット実施に関する合意形成が図られたとのことである。

IMFは、グアテマラ政府が、(1)2009 年の財政赤字を最大で GDP 比 2.4%に抑えること、(2)インフレを抑制するとともによりフレキシブルな為替政策を採用すること、(3)金融セクターの強化に努めること、の3つの政策に基づき、社会事業及びインフラ整備の実施に焦点を置いた予算の再編成や、金融政策を通じた民間金融機関の流動性確保と体制強化等に取り組んでいることを評価した。

(3) 第7回中米・EU 連携協定交渉の中断 (3月30日～ 於ホンジュラス)

30日、テグシガルパ(ホンジュラス)において、第7回中米・EU連携協定交渉が開始されたが、4月1日、ニカラグア政府代表が交渉の場から撤退し、交渉は中断を余儀なくされた。ニカラグアは、同国がEUに対して要求していた約 60,000 百万ユーロ(約 79,000 百万米ドル)の共同基金の設立が受け入れられなかったことを不満として交渉を放棄したとされ、交渉再開に6ヶ月の猶予を要求した。

グアテマラ外務省はプレス・リリースを発出し(4月1日付)、ニカラグアの交渉からの撤退に遺憾の意を表するとともに、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ及びホンジュラスの4カ国は、引き続き2009年度上半期の交渉終了を目指して取り組むことで一致しているとして、ニカラグアに交渉の場に戻るよう呼びかけた。

第7回中米・EU連携協定交渉が中断したことを受けて、4月23-24日、ブリュッセル(ベルギー)において両側の非公式会合が開催されることとなる見込み。